



国立大学法人
豊橋技術科学大学

IT食農だより

発行元: 豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

住所: 〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

TEL: 0532-44-6655 FAX: 0532-81-5108 E-mail: manager@recab.tut.ac.jp

2020年1月15日

No. 71



最先端植物工場マネージャー第8期生・IT食農先導士（最先端土地利用型IT農業コース）第4期生開講式集合写真（2019年12月7日）

最先端植物工場マネージャー第8期生・IT食農先導士（最先端土地利用型IT農業コース）第4期生プログラム開講！

令和元年12月7日（土）に最先端植物工場マネージャー育成プログラム8期生とIT食農先導士養成プログラム（最先端土地利用型IT農業コース）4期生の開講式が行われました。植物工場マネージャー8期受講生は12名、土地利用型IT農業コース4期受講生は5名で、うち農業及び農業関係者は8名です。

開講式では、浴俊彦先端農業・バイオリサーチセンター長の挨拶から始まり、連携自治体の紹介、山内高弘同センター特任准教授によるプロジェクトの概要説明及びスタッフの紹介が行われました。その後、受講生・大学スタッフ・連携自治体等関係者を交えた記念撮影を行いました。これから1年4ヶ月間にわたるプログラムを通じ、共に学び合い、充実した時間を過ごせることを期待します。（文責：大木明美）

東海地域の6次産業化推進人材育成第8期生 第3回企業視察

令和元年12月14日（土）に東海地域の6次産業化推進人材育成の第3回企業視察として、三重県伊賀市の伊賀の里モクモク手づくりファームを、受講生12名が訪問しました。伊賀の里モクモク手づくりファームは、農業の6次産業化の成功事例として注目され、豚肉の加工、その体験の事業化、ハム、ソーセージ、地ビール、パン、菓子、豆腐等の農産物加工品の製造販売、地域の農家との契約栽培を通じた直売所とネット通販、更に農家レストランなど幅広く事業化し展開しています。視察では、食品加工の体験として手作りワインナー教室に参加した後、モクモ



手作りワインナーの作成風景

ク手づくりファームの小松浩也さんから、同社の事業展開の経緯や農業の6次産業化に関する独自の理念などについての講演をお聞きしました。受講生からは熱心な質問が飛び交い、有意義な企業視察となりました。（文責：山内高弘）

植物工場先端技術セミナー「スマート農業を支える農工融合研究」

令和元年11月21日（木）に（一社）日本施設園芸協会、豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター、豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所、愛媛大学植物工場研究センターが主催し、「スマート農業を支える農工融合研究」と題し、セミナーが行われました。

た。
今話題となっている「スマート農業」をテーマに豊橋技術科学大学の4名の先生方から農業利用を期待される先端工学技術（センサー、ドローン、ロボット、植物生体情報計測）についての講演が行われました。
本学で培われた工学的技術が、農業分野への応用事例とともに、より身近な技術として紹介され、受講者からも熱心な質問がありました。
(文責…加藤元志)



セミナーの様子

季節の花 デージー

デージー(学名: *Bellis perennis*)は、ヨーロッパ、北アフリカ原産のキク科、一年草として扱われています。「デージー」は「Day's eyes

(太陽の目)が転訛したと言われていいます。和名は「ヒナギク」、別名に「エンメイギク(延命菊)」、「チョウメイギク(長命菊)」などがあります。
種子を播いて育てます。種播きの時期は8月下旬〜9月上旬です。他の秋播き草花よりやや早めに播いて、冬までにできるだけ大きな苗にすると冬越しがしやすくなります。移植できるので、育苗箱に播種後、本葉が2〜3枚になつてからポットなどに一つずつ植えて、最終的には10月中旬に花を咲かせる場所に定植します。
この植物は、日当たりの良い場所を好みます。特に苗の時期はしっかりと日に当てて丈夫な株に育てることが大切です。寒さに比較的強いですが、不安な場合は霜よけ程度の簡単な防寒をします。



土の表面が乾いたらたっぷりと水を与えます。乾燥にやや弱く、水切れを起こすとすぐに葉が萎れます。特に開花時期は生育も旺盛で水を良く吸うので水切れに気をつけましょう。比較的肥料好きの植物です。育苗時期から花が咲き終わるまで、月1〜2回薄めの液体肥料を与えます。窒素分の多い肥料を与えると葉はよく茂りますが、花付きが悪くなります。花付きをよくするにはリン酸分の多い肥料を与えます。
(文責…山内高弘)

旬の食べ物 ハクサイ

学名: *Brassica rapa* L. var. *pekinensis*
英名: Chinese cabbage, Napa cabbage
ハクサイはアブラナ科アブラナ属の2年生植物です。原種である *Brassica rapa* は地中海沿岸地域の原産で、中国に伝播した後に栽培化が進み、チンゲンサイ、カブ、山東菜、ハクサイなどの様々な野菜に分化しました。そのため、ハクサイは中国北部原産と表記されます。ハクサイは、鍋物、煮物、炒め物、漬物などの幅広い用途で食され、冬の食卓には欠かせない食材です。

私達が普段よく見かけるハクサイは、結球種ですが、半結球種、非結球種もあります。また、球形から円筒型(包被型)、砲弾型、長円筒型に分けられます。円筒型は重さ2〜4 kgほどの一般的な大型のハクサイです。砲弾型は円筒型に似ていま

すが、葉の上部があまり重ならならず、少し尖った形をしています。長円筒型は縦長の円筒形で、その見た目からタケノコハクサイとも言われます。その他にも、外葉は緑色で、中の葉がオレンジ色をしているオレンジハクサイ、重さ1 kg前後の小型のミニハクサイなどがあります。特に、ミニハクサイは、味や食感は普通のハクサイとほとんど変わらず、一度に使い切れるサイズで取り扱いしやすいため需要が高まっています。
ハクサイの主な産地は、茨城県と長野県です。愛知県は、かつて全国3位の生産量でしたが、ここ数年は減少傾向にあります。今が旬のハクサイです。ハクサイを購入するときには、ずっしりと重みのあるもの、外葉の色が濃いもの、断面は白くてみずみずしいものを選びましょう。
(文責…熊崎 忠)

